

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(経済産業部)

事業	4	事業名	農を支える元気な担い手支援事業費
----	---	-----	------------------

1 基本情報

実施日／班名	9月6日 第2班	時間	12:50~13:57
担当課名	農業振興課	事業費	32,300 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	5
			一定の効果がある	27
			あまり効果がない	7

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> この事業の費用対効果が見えません。 費用対効果の分析が甘いです。また、そのための管理指標が設定されていません。
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> がんばる新農業人支援研修を一年から三年くらいにしてみたらいかがか。 栽培地域や研修人数などは、幅を広げられたらよい。 事業実施地域は増やすべきだが、品目を増やす方向性については、県の助成でやるので特産品目に絞って受け入れる方向もあるのではないか。 受入人数を増やしてほしい。 がんばる新農業人支援事業について、受入部会と作目の拡充が必要です。また、地域の拡大も必要です。 がんばる新農業人支援事業での受入農家が県西部、伊豆地域に偏っているため、県中部地域の受入農家を発掘すべきである。 女性が少ないが、なるべく多くの人にも参加させてほしい。 女性も増えるようなものがあると良いかもしれないですね。 現状、農業者の半数以上を65歳以上の高齢者が占めており、そうすると10~20年後に大規模な世代交代が必要になってくるのではないか。現在、しずおか新規就農チャレンジ事業や、がんばる新農業人支援事業等を県が行うことで、新規の就農者が増加はしているものの、10~20年後に、現在の農業の規模を維持できるだけの農業の担い手が確保できるのか心配である。そう考えると、現状の新規就農者支援だけでは、将来的に農業を維持できるだけの担い手を確保しきれないのではないか。さらなる事業の拡大が必要である。 この事業の広報活動がどのようになっているのか気になった。私自身、就職に関する情報をよく手にしているのだが、この事業のことは聞いたことがなかった。若い人の就農者数を増やすには、こういった事業を学生に広く知らせるべきである。 7日間程度のチャレンジ体験なら、学生も参加できるので、学生の受入と教育機関への広報活動を進めてみるべきである。 若い人材を集めるためには、より若い頃から農業に興味を持ってもらう必要がある。高校生などを対象にした短期農業体験も行ってはいかがか。

事業内容

- ・ 県外からの就農希望者の増加のためにさらなる PR をしたほうがいい。さらに、農家を望む若い人たちや定年後の人たちにもこの事業を知らせるべきである。
- ・ 県の認定ブランドがあるのだから、新規にやりたい品種もあるとは思いますが、静岡にはこれだけの特産があることをアピールして間口を広げれば、参加者も増えるしミニトマトやイチゴだけでなく分散される。
- ・ 受入農家は広い農地が必要なため、がんばる新農業人支援事業が少ないということだが、H25の吉田町の水稲と浜松市のみかん受入実績を見ると、必ずしもそれが理由で受入が少ないわけではない。
- ・ 作目についての希望を、アンケートをとったらいかがか。手っ取り早い農業だけでなく、静岡特産物の茶にたずさわる人をもう少し長期的にみて育てていく必要があるのではないか。
- ・ 農業受入農家数が足りない。新規開拓する必要がある。
- ・ 就農者は県外からが多いということだが、県内の若い人が就農できるような工夫が必要ではないか。
- ・ 農業離れの中、若い人ばかりでなく、幅広い年齢層の新規就農者を募るための広報や支援が必要ではないか。
- ・ パンフレットを見ると、やはりいくら助成があるにしろ、初期投資はかなりの資産が必要となっているので、初期投資における融資があると、今より応募しやすくなる。
- ・ どのような方が農業を始めようとしているのかは分からないが、制度そのもののアピールや宣伝が足りないのではないか。
- ・ 農業自体の良さをもっとアピールすべきである。
- ・ 農業の体験をもっと子どもたちからさせる。修学旅行で農業体験などするのもよい。
- ・ 新規就農者を増やすには、就職しやすい農業法人を増やす必要がある。
- ・ 受入母体に格差があるのは仕方ないが、地域特性を活かした品目への支援がほしい。
- ・ 作目によっては大きな機械を必要とするものもあると思うが、それらに対する補助があつてよい。
- ・ 若い人が農業をやるための学校教育を行うとともに、個人経営から農業法人への移行を支援する仕組みを作る。
- ・ 高校や大学のうちから農業を担う人材を増やしていくための取組を行う。
- ・ 一般の会社と同じような収入があるようにしていただきたい。
- ・ お茶畑を借りるのに面積が必要とのことですが、お茶をやめてしまった農家が多くあるので、そういったところ借りていただきたい。
- ・ 認定農業者の42%が60歳以上なので、若い方を募集して体験させて、いち早く経営を開始させてほしい。
- ・ 事業の広告宣伝をしていただきたいです。
- ・ 県独自の支援であればもっとアピールすべきです。
- ・ 受入人数の割に予算額が大きい。受入人数増加のための努力が必要です。
- ・ これから自立した農業を個人でやっていくと価格的にも高くなるので、ビジネスとしてやっていける法人化のような対応をとったほうがよい。
- ・ 他県との事業の差別化をどのように工夫していくかが課題です。
- ・ 受入農家を増やす工夫が必要です。
- ・ 受入農家をもっと集めるべき。
- ・ 研修生に対する助成金を引き上げられませんか。
- ・ 農家で研修受入をしてもらい、就農に導くという着眼点は悪くないが、予算額に対して実際の効果が低い。そのため、就農継続期間と比例して金額を上げるような形のものにするなどの工夫があつてもよい。
- ・ いずれ将来的には、就農対策・雇用対策に予算を使わずにすむ、自然に人材が集まる産業に育てるべきです。また、浮いた予算を農産品の販売促進費に使うべき。
- ・ より専門的な農業者を増やすのなら、このような就農者よりも、ビジネス経営体への法人就職を優先するようにしたほうがよい。

事業内容

- ・新規就農の確保については、県立農林大学校の更なる活用で対応してはどうか。
- ・今後 TPP など外国の農産物との競争が必然とされる上、特にコスト面などでは今まで以上の厳しい条件が迫られるでしょうから、長所を更に伸ばすことも必要ではないか。そのためには、何が他県と比べて優位なのか（どんな農産物がどの位優れているのか）、あるいは更にそれを伸ばすにはどう工夫したらよいかを検証してみたらどうでしょうか。
- ・非常に有意義な事業ではあるが、追跡調査についても重点的に行ってもらいたい。
- ・就農の割合というのは、全国的に横バイか、むしろ減少傾向にあるのが現状だと考えられるため、単に就農者の総数を増やすのではなく、他県に対して静岡県農産物の優位な面、強い点を伸ばすことに着目してみたらいい。
- ・企業参入の支援を充実したほうがよい。
- ・「枠（受入先）」を増やすことが課題であれば、受講生を増やすよりは、地域の現役の農家と、もっと連携していったほうが効果的ではないか。
- ・「農業」そのものに興味を持ってもらえるような工夫もすべきではないか。
- ・農家の方の高齢化にしたがって、お茶農家になるための支援も積極的に行う必要である。
- ・県側から特色としたい作物を農業研修者に提案して、互いに高め合っていくのもいいかも知れない。
- ・農業をやるというよりも、「〇〇を作る」というような募集してみてもどうか（新しい作物、珍しい作物に限られてしまうが）。
- ・農業に興味がある人にとって、しずおか新規就農チャレンジ事業やがんばる新農業人支援事業などは非常に良い取組である。しかし、後継者や必要な数の新規参入者などを獲得できる程の成果ではない印象を受けた。実際に就農者が不足している状況下では、もう少し工夫が求められる。
- ・受入農家を増やすために PR の強化や、品目を増やすことが必要です。
- ・研修生の募集を、農業系以外の学生等にも広めたらどうか。農家にとっては、意欲のある人手は必要なはずです。
- ・地域受入連絡会の構成農家以外にも、PR したほうがいいのではないか。
- ・農家の方々は後継者問題を考えているのでしょうか。国・県・市と一致で取り組むべきです。
- ・地域の中核となる人材の育成となるような事業に重きを置くべき。
- ・イチゴやトマト農家を増やすことに、どれくらい意味があるのか。耕作放棄地を減らす効果のある作物なら別だが。
- ・女性をターゲットにした就農施策を考えるのも 1 つの手である。（安倍総理ブームもありますし）
- ・女性の就農が少ないため、対応を検討していただきたい。

(2)その他の意見

- ・今後の成果のためには、よりいっそうの検討をお願いします。
- ・県中部受入部会が 0 なのはなぜですか。中部後継者はいるのですか。
- ・年齢について年少は何歳ですか、年高は何歳ですか。
- ・予算をかけて行う事業なので、成果を出さないといけない。がんばってください。
- ・就農者を増やす機会として必要な事業だとは思いますが、①新規就農従事者が 300 人というのは適正なのか、②県側の提出しているデータが分かりにくい（専門委員の指摘のとおり）、③予算の使い道が分からない。この予算は適正な基準なのか、費用対効果の面からどうなのかといった疑問を感じた。
- ・就農相談の効果は大きいように思われる。
- ・大学、高校生等の就活の中に支援事業の内容を盛り込んでいるのでしょうか。
- ・農業地域でなく都市から農業者、そのための計画
- ・チャレンジ体験者が増えていることは希望が持てます。
- ・非農家出身者が就農できるバックアップは効果がある。
- ・自宅の分で必要な畑だけ残して、使用していない畑が多くあります。

- ・体験者受入農家にも補助金が出ていますか。
- ・農業のやり方自体を変えてみてはどうか。
- ・がんばる事業の応募者が H22 をピークに減少傾向だがどのように分析しているのか。景気の影響なのか。その結果として 30 人分の経費としているのか。
- ・目的達成のためには、必要なだけの作付面積がなくてはならない。
- ・県がいくら努力しても限りがあります。
- ・新規就農者が増えてこない理由として県の担当者から「農地の問題が強い」とのお答えでしたが、それよりも農家の所得の問題のほうが大きいのではないかと。担当者の事業そのものへの解釈について、もう少し客観的に説明していただきたいかった。
- ・対応品目が増えたとはいっても限定的であるところが、この事業について疑問が残るところです。
- ・農家の後継者に対するケアを、もっと早期に介入的なもので事業展開して、何とかしていかなければと皆さんのお話をお聞きしながら考えました。
- ・地域の中核となる人材の育成となるような事業に重きを。
- ・がんばる新農業人支援事業や新規就農チャレンジ体験が少なくても、それほど新規参入者は減らないと思います（法人等の就職を選択すると思うから）。
- ・農業をとりまく情勢が変化して、このような事業で農業へ参入した人が、成果が上がらなくなったから支えたりするのでしょうか。
- ・就業者に対する支援は、農業よりも製造業や第 3 次産業の方が、費用対効果が高いと思われる。
- ・体験者の方は、どこの地方の出身者が多いのでしょうか。体験を通じて農業を学べることで、研修される方にとってはとても良い実感をすると思います。
- ・農業は体力が必要なので、難しいことも分かった。
- ・生活できるだけの収入が得られるのであれば、不安はないと思う。
- ・新規ビジネスといえば聞こえはいいが、1 番困っているのは、今まさに農を行っている農家さんではないのか。
- ・他県が入ってきたらダメだったということは、更なるオリジナリティがほしい。（例えば、いろんな種類の野菜を育てられます、など）
- ・農業経営を開始した就農者の売り上げや成果を教えていただけたらよかった。静岡県のブースにそのような方がいたり、結果が見えるとより人が集まるかもしれないですね。
- ・就業しなかった人の中に、農業に対してはイヤと言っている方がいないため、何か方法を考えれば、就農率が増えるのではないかと。
- ・各事業への希望者の枠から漏れてしまった方々への、具体的なフォローアップなどはあるのか。
- ・この事業を利用している年代の推移が書かれていなかったなので、記した方がよい。
- ・この研修型の事業は、ものづくりなど他の産業分野にも応用できるので、それらにもお手本として提示するとよい。
- ・着眼点（受入農家と新人の繋がりができる）はとてもよいし、実績も出ている。
- ・茶工場による第 6 次産業はよさそう。
- ・研修を終えて、新しく農業を始めたとしても、失敗することもあると思う。地域との繋がりが、そういう場合には助けになり、相互にメリットのある良い施策である。
- ・新規就農全体の数に対して、この事業による新規就農の効果が分かるようにすべき。
- ・目先の損益に敏感になる農家が増加していると思われるが、それはいかがか。
- ・事業の選択と集中を行うべきである。
- ・土地問題は課題も多く、若い世代に主体が移っているところに話をしていくとよい。
- ・現在の農協が物売る仕組を改革する。
- ・耕作放棄地は大型店舗に貸して収入を得る。